



TITLE:

望遠鏡だより

AUTHOR(S):

中村, 要

CITATION:

中村, 要. 望遠鏡だより. 天界 1927, 7(75): 262-263

ISSUE DATE:

1927-05-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161113>

RIGHT:

望 遠 鏡 だ よ り

京都大學天文臺の新しい

屈折大望遠鏡

去る1926年の秋から京都帝國大學天文臺で新しい屈折望遠鏡を英國より購入する話が進みつゝあつたが、最近には之れが可なり具體化して來た。

話は、ロンドンのワトソン會社から、「12」吋赤道儀の賣り物があるから……と知らせて來たのに始まるのであつて、昨年大學之れを買ふことに決定し、直ちに其の交渉を開始した。此の望遠鏡は、元々クック(Cooke)會社製のものであつて、

對物玉は 直徑30センチ(12吋)、焦點4.5メートル(15呎)、

鏡筒は 二部より成り、リゾトゴ繼ぎ合はせ、散光を防ぐための裝置付き、

接眼部は 多くの rack-and-pinion 仕掛けにて接眼玉各種の取外しに便し、

位置環は 微動裝置及び顯微測定の裝置よく、

ファインダーは 9センチ(3½吋)口径の屈折鏡、

載せかけ裝置は 高さ3.7メートル(12呎)、下部の直徑1.2メートル(4呎)

赤緯軸は長さ90センチ(3呎)、重垂其の他附屬、

赤緯環は 70センチ(27吋)直徑10' 毎に目盛り、微尺付き、又、1°毎の大きな目盛り、一之れに微動裝置

極軸は 長さ1.8メートル(6呎)、

時角環は 直徑43センチ(17吋)、1m毎に目盛り、微尺及び顯微鏡付き、

自働時計仕掛は 直徑90センチ(30吋)の齒車で働らく

尙ほ附屬品として

ハイゲンズ式接眼鏡 8個(倍率は60倍から1000倍まで)、

直角接眼鏡 2個、

廣角眼接玉 1個、

測微器(クック製) 1個、

大型分光器(ヒルガー製) 1組、
水準器(赤緯軸のため) 1個
がある。

京都からの注文と同時に此の望遠鏡は原作者クック會社に於いて多少改造せられ京都の緯度35°に合ふやうに改められた。去る三月中旬諸準備完成の報あり、直ちに英國を發送することとなつた、一多分五月(遅くとも六月)には神戸港に着く筈。

此の望遠鏡は、勿論我が日本に於ける屈折式望遠鏡の最大ののものであつて、(現今は神戸海洋氣象臺のクック「10吋」が最大)大學天文臺の設備として、歐米に於いても、先づ普通の大きさである。これによつて一歩々々我が國の天文設備も理想に近づきつゝある。

反射望遠鏡便り

倉敷の天文臺の31.5センチ鏡及び京大天文臺の32.5センチ鏡何れも製作された年が分らない。倉敷のカルヴァー鏡は“G. Calver 108”といふサインはあるが京大のには何も書いてない、京大のはG. Calver Chelmsford といふ製作者名が時計の金具にあるのみである。何れもカルヴァー以外以外此れだけ美事な鏡面を作り得る人がないのでカルヴァー製たる事は疑はない。此の事情を鮮明する爲に原作者カルヴァー氏にマウンティングの寫眞と共に送つた所。

「所有者が變つて居るので作つた年は分らない」その事である。多分同氏は此の口径の鏡は、記憶する事が出来ない程多數のものを作つた事と思ふ。兎に角製造者が知らない事であるので多分、永久に不明と思ふ。しかし大體の豫想をつける事は無駄ではなからう。

倉敷の32センチは赤道儀はホランドE. Holland 會社製である。其の鏡は同口径のものが三個あり、一個がカルヴァー鏡で、他は豫備品である。何れも硝子材は厚さ二吋あり美術的な美しい硝子材である。此の豫備品は京大天文臺に寄贈され

たが其の一つは, Hollands, London 1892 さいふサインがあり、此れが最初の鏡面を思はれる。此の表面は素人が凡ゆる修正を試みて遂に成功しなかつた様な表面をして居る。

(註 エリソン及びスレード兩氏に問合せた所による。此の製作者は全く未知の事である。)

今一つの鏡はサインは無いがかなりの技術を持つて多分、レンズ専門會社の製品であるらしい。かなりの鏡である。

先づ最初はホラント鏡を使用して、成績が良好でなかつた爲に無名鏡を求め、此れも不充分でカルヴァー鏡を遂に求めたものと思ふ。倉敷の反射鏡の平面は明らかにカルヴァーのものではない。此れで製造年代は1892年頃と考へ得るが番號より見れば未だ古いものかも知れない。

京大のは何等確かな材料は無いが、マウンテンカ及び鏡面の研磨等より見て比較的新しく、1900年頃のものかと思はれる。

カルヴァー氏の事につき、エリソン及びスレード兩氏について調査した所によ

る。

カルヴァー氏の鏡面研究を始めたのは1867年或は以前の事である。Grimbsy の靴工から作業を始めたもので此の頃には殆んど鏡面に對するまゝまつた智識は持つて居なかつたが Purkiss 或は Newton 等の素人から種々の教示を受け1873年製のカルヴァー製があり、1879年には36寸を作るまで技術が進歩した。

(註 鍍銀鏡が英國で普及の始まつたのは1864年頃である。)

1867年以來 世界の最大の眼視鏡製作の技術者としての名聲を保ち 現在60年になる。従つて現在94歳である。最近には健康上製造は止めて居るが、尙ほ作業し得る事の事である。

W. Banks 著 Telescope

餘分が3冊ありますから希望者に原價で譲ります。鏡面製法が含まれて居ります。送料共 2圓07錢

ハイゲン接眼レンズ 4ミリ、6ミリ、

15ミリ、25ミリ各一個不用品で希望者に譲ります。何れも英國型屈折用であります。價格等小生まで(天文臺、中村要)

大正十五年度合計報告

入	出
金 費 收 入	3468.円 77
部 費 收 入	34.円 10
寄 附 金	545.円 10
出版物賣上高	572.円 90
廣 告 料	203.円 60
振替貯金利子	17.円 49
前年度繰越金	565.円 855
計	5107.円 815
支	
雑誌印刷費	3503.円 43
其他ノ印刷費	651.円 30
消 耗 費	23.円 59
備 付 品 費	60.円 00
雜 費	252.円 445
事 務 謝 禮	510.円 00
間 備 料	100.円 00
原 稿 料	174.円 00
本會天文台補助金	131.円 16
圖書購入費	4.円 00
總會及講演會費	184.円 91
計	5504.円 835

計 差引欠損 187.円 02 (コレハ昭和二年度ヨリ支拂濟)

大正十五年度未收	
未收會費	約1200.円
出版物賣掛金	215.円
廣 告 料	225.円
警醒社へ(星圖代)	約480.円
	2120 円 00

大正十五年未拂	
原稿料	509.円 50
事務謝禮	100.円 00
編輯料	220.円 00
古賀恒星圖	550.円 00
圖書購入費	278.円 75
	1653.円 25

差 引 債 權 461.円 75